

— 目次 —

- えんjoyネットに期待する
- 地域医療連携
- PICK UP!
- 研修・セミナーのご案内
- 地域連携室より

「えんjoyネット」に期待する

地域医療・総合相談センター長 田中 守嗣



明けましておめでとうございます。

2025年問題に向けて国は地域包括ケアシステムを構築し在宅医療を進めるべく、ICT（情報通信技術）等を活用した情報共有ツールの整備を平成29年度末までに開始するよう義務づけています。こうした中、平成27年10月に刈谷市役所など行政機関と刈谷医師会、刈谷市歯科医師会をはじめとした各種職能団体からなる「刈谷市在宅医療・介護連携推進協議会」が立ち上がりました。平成28年5月に電子@連絡帳の採用が決まり、刈谷市医療・介護・福祉ネットワーク「えんjoyネット」として平成29年4月の運用開始が決定しました。愛知県内ではすでに同様の電子@連絡帳が運用されており、医療介護連携の重要なツールとなっています。この「えんjoyネット」が刈谷市における地域包括ケアを円滑に推進するためのツールとして、多職種間で活発に利用されることが期待されます。また、引き続き医療連携ツールである「KTメディネット」のご活用もよろしく申し上げます。



2016年10月より、重症喘息患者さんを対象にした新しい喘息治療である気管支鏡下インターベンション治療「気管支サーモプラスティ」を導入しました。

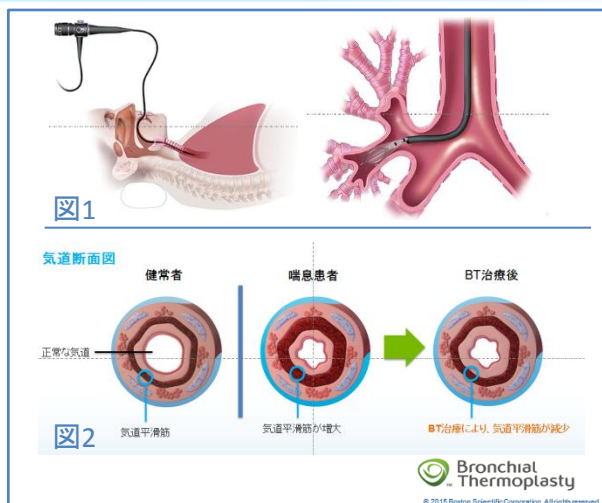
これまでの喘息治療

喘息の症状である喘鳴は、気道の炎症などの刺激によって気道平滑筋が強く収縮し、気管支が狭窄することで起こります。そのため喘息の治療は、抗炎症薬であるステロイドと気管支拡張薬の配合剤の吸入薬を主に使用します。その他に抗炎症薬であるロイコトリエン受容体拮抗薬や抗ヒトIgEモノクローナル抗体製剤などを使用します。様々な薬剤が開発されてきましたが現在のところ喘息を根治させる治療法はなく、薬剤で発作を起こさせないようにする治療法が主体でした。2015年4月に保険適用された新たな喘息治療法は薬剤ではなく内視鏡治療で喘息発作を軽減させるというこれまでと全く異なる方法です。



■ 気管支サーモプラスティ(BT)とは？

BTは気管支鏡下で行う処置で、気管支鏡の鉗子口にバスケット型の電極カテーテルを挿入し、気管支の周りにある気道平滑筋を65℃で10秒ごとに加熱焼灼します(図1)。気管支収縮の要因とされる肥厚した気道平滑筋の量を減少させて収縮する力を弱め、刺激があっても気道の反応を抑制して気管支が収縮しにくくすることで喘息症状を緩和します(図2)。右下葉、左下葉、両上葉と3回に分けて気管支全体を焼灼していきます。治療後に一時的に発作を来したり症状が悪化することがあるため入院で行います。



症状がコントロールできることでQOL向上が長期的に期待されます。海外では既に2011年頃から各国で導入が進んでおり、日本では2014年9月に医療承認され、2015年4月より保険適用されています。費用は1回約40万円でありBT治療を受けた月の医療費は高額となるため、高額療養費制度の対象となります。当院では2015年10月に試験的に1症例目を行い、2016年10月から新しい気管支鏡が導入されたため本格運用を開始しました。対象症例はアレルギー学会または呼吸器学会の専門医によって判断され、BTは気管支鏡専門医の指導の下に行われる必要があります。当院は、いずれの学会においても認定施設であり、専門医も複数います。BTはまだ実施できる施設が限られていて、愛知県でもまだ5施設のみで主には大学病院です。三河地区で唯一のBTが可能な病院として専門性の高い治療を提供できればと考えています。

BT治療の対象となる方

高容量の吸入ステロイドと気管支拡張薬を使用しても症状がコントロールできない
18歳以上の重症喘息患者

以下のような方は治療対象外となります。

- ・18歳未満の方
- ・ペースメーカー、体内式除細動器など植え込み型医用電気機器を使用している方
- ・気管支鏡治療に必要な薬剤(リドカイン、アトロピン、ベンゾジアゼピン系抗不安薬など)に対し過敏症がある方
- ・以前にBTを受けたことがある方
- ・血液凝固障害が疑われている方(出血が止まりにくい、または血栓ができやすいといわれている方)
- ・医師の指示による抗凝固薬、抗血小板薬、アスピリン、NSAIDs等の中止ができない方

◆ PICK UP ! ◆

当院の褥瘡ケアと地域連携

褥瘡対策委員会 皮膚・排泄ケア認定看護師 中西 里佐

当院に入院される患者さんは、高齢者が多く年々重症度も上がっているため褥瘡を形成するリスクが高くなっています。そのうえ病状や栄養状態の悪化、治療に必要な胃瘻カテーテル、点滴ルート、ギプスといった医療機器の圧迫やずれによって更にリスクが高くなっています。当院では、2003年に褥瘡対策委員会が結成され多職種で院内全体の褥瘡対策の推進と管理を行っています。しかし地域包括ケアシステムが推進されるなか、褥瘡ケアは病院だけでは完結できず在宅でも必要となってきました。今回は、地域の皆さまと関わる活動の一部をご紹介します。



同行訪問

2012年より認定看護師による同行訪問も行っています。療養場所が変わってもその場所に合わせた看護が提供できるよう、連携を強化していきたいと思っています。在宅での褥瘡ケア・排泄ケアに関して、不安やお困りのことがありましたら、いつでもご相談下さい。一緒に褥瘡ケアを行いましょう。

■ 皮膚・排泄ケア認定看護師による同行訪問のご案内

- ◇ 相談可能な内容
褥瘡ケア(真皮を超える)
- ◇ 相談窓口・方法
刈谷豊田総合病院 入退院センターへ電話またはFAXでご連絡ください。
担当者 中西 里佐 TEL 0566-25-8286 FAX 0566-25-8329
- ◇ 同行訪問にかかる費用
1割負担:1285円、2割負担:2570円
※利用を希望される場合は、利用者・家族の皆様に必ず説明をお願いします。



スペシャリスト研修

地域の皆さまと“顔が見える”連携をと考え2011年から、当院の専門・認定看護師による“スペシャリスト研修 ~明日のケアに生かせる技術~”を開催しています。地域で活躍される皆さまと看護ケアについて知識・技術を共に学び、患者さんにとって最適な看護について語り合う場所となっています。その中で私たちは、褥瘡ケア、スキンケア、ストーマケアについて、最新のトピックスを含めた情報をお伝えしています。各施設での勉強会の企画についても、相談やお手伝いをさせていただきます。



今後も、地域の皆さまとの連携を大切に活動してまいります。
どうぞよろしくお願いいたします。

◆ お問い合わせ先 ◆

刈谷豊田総合病院 入退院センター
0566-25-8286
看護師 中西 里佐まで

研修・セミナーのご案内

● 第15回在宅呼吸ケア地域連携の会

肺機能が弱い患者や在宅酸素療法を行っている患者のよりよい在宅ケアサービスが多職種で提供できるよう地域連携を進めていくための会

【日時】 平成29年2月25日(土) 午前10時～12時

【会場】 診療棟5階 第1・2会議室

【対象者】 訪問看護師、ケアマネジャー

【問い合わせ】 0566-25-8304 <地域連携室>

● 訪問看護呼吸ケアケーススタディ

医師と訪問看護ステーション、介護系スタッフなどによる在宅呼吸ケア症例検討会

【日時】 平成29年3月3日(金) 午後4時～6時

【会場】 内科外来

【対象者】 在宅呼吸ケア症例を担当中の訪問看護ステーション、介護系スタッフの方など。

設別に開催時間が異なります。新規参加御希望の方は、予め地域連携室にご連絡下さい。

【問い合わせ】 0566-25-8304 <地域連携室>

● 第2回在宅医療連携研修会

【テーマ】 急性期病院と在宅医療現場の連携「がん患者の在宅療養を支える」

【日時】 平成29年3月4日(土) 午後2時30分～5時

【会場】 診療棟5階 第1・2・3会議室

【対象者】 医療・介護関係者

【問い合わせ】 0566-25-8304 <地域連携室>

■ 地域連携室より ■

早いもので「地連ほっとLINE」の発刊も今回で第7号となりました。今後も引き続き、少しでも皆さまのお役に立つ情報の発信に努めて参りますので、皆さまのご意見・ご投稿をお願いいたします。

当院の地域連携室には看護師、医療ソーシャルワーカー、事務の他に、薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士が所属しています。今後も多職種連携の窓口として地域連携室を積極的にご活用ください。

